

県立高等学校前期再編計画に伴う  
井波高等学校跡地の活用に関する要望書

平成21年 5月29日

南砺市長 田中幹夫様

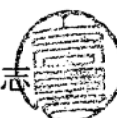
南砺市井波地域自治振興会連絡協議会  
会長 横川正希



富山県立井波高等学校同窓会  
会長 才川昌一



富山県立井波高等学校PTA  
会長 高見雅志



このたびの、富山県立高等学校再編の前期実施計画では、「井波高校と福野高校」の組み合わせにより新高校を開設し、平成22年4月に新入生の受け入れされることになりました。

これまで、井波地域自治振興会連絡協議会を中心に井波高校の存続を求めてまいりましたが、この決定に対して地域住民の多くは大変な落胆をしております。

井波高校は、旧井波町の高等教育充実に対する熱い思いから、昭和33年12月から昭和34年9月までの第一期工事、昭和36年10月から昭和37年3月までの第二期工事を施工し、昭和37年4月の臨時議会において、校舎、敷地、設備備品を富山県に寄付することを議決したものであり、当時として約54,400千円（敷地費用除く）の多額の費用を費やしたものであります。

同窓会においても、井波高校の施設充実を図るため、宿泊ができるセミナーハウスの一部や前庭整備などの寄附を積極的に行ってきました。また、井波高校においても、ボランティア活動に力を入れてこられ、住民と共に地域づくりに貢献している高校であり、このことは地域の方々も大変感謝されています。

井波高校は、井波地域及び住民にとって、非常に重要な存在（シンボル）であり、地域住民にとって井波高校の跡地利用は最大の関心事であります。

以上のことから、南砺市井波地域住民、井波高校同窓会、井波高校PTA等多くの住民が持っている井波高校に対する熱意をお汲み取りいただき、井波高校の跡地の活用に関し、高等教育機関等の設置や誘致など、所有者である富山県の責任として積極的な活用方法を検討いただき、速やかに、その活用方法を南砺市及び地域住民に示されますよう、強く要望します。

このとおり富山県に対し要望いたしますので、南砺市においても積極的に富山県へ働きかけられますよう、要望いたします。

